

## 子ども達と学力

ある日曜日、親族の法事に一族が集結した。東京で暮らす姪の一家とも久々に顔を合わせた。彼女には小学生と中学生の子供がいる。

「今週の土曜は学校の授業がなかったから、子供を連れて昨日からこちらに来てるの」

「えっ！土曜日に授業があるの？私立の学校？」

「違うわ世田谷区立、れっきとした公立よ」

「コロナで授業時間が足りないから」

「コロナ以前からやってる、もう十年になるわ」

「日本は授業時間が少ないですよ、世界に比べて」

東京23区の土曜授業の実施には心底びっくりした。しかも世界水準で子供の教育を考えている。島根ではあまり聞いたこともないのだが、他県では土曜授業はそう珍しい

ことではないらしい。近年都市部と地方の子ども達の学力の差が取りざたされている。その原因は教育にかける親の経済力の差にあると言われるが、どうやらそれだけではなさそうだ。

行き過ぎた学力偏重、詰込み教育の反動から、一時ゆとり教育が叫ばれた。そして今ゆとり教育の反省が語られている。学力は子供の成長にとって重要な要素であり、決して軽視してはならない。身に付いた確かな学力は、生きていく基盤となり、職業選択の幅を広げ、仕事に深みを与える。

文科省は7月下旬全国学力テストの都道府県ごとの結果を発表する。さて島根の子供たちの結果はいかに。